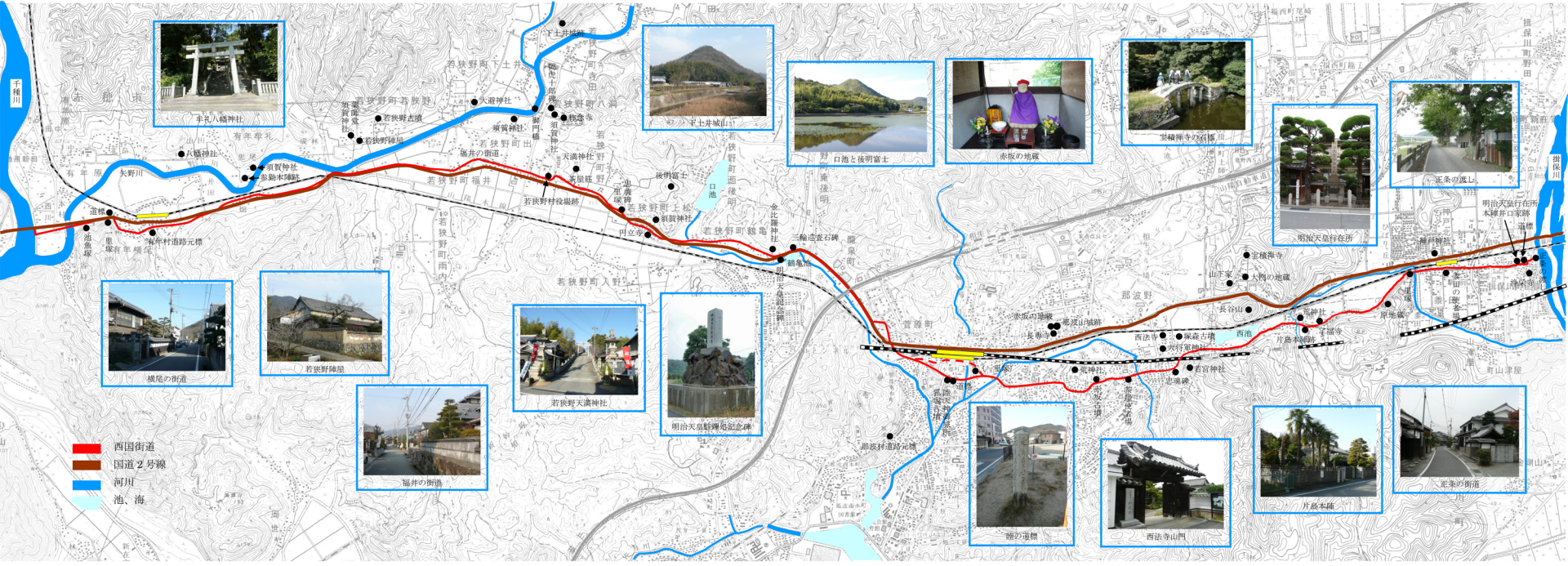

西国街道探索マップ

平成 22 年 3 月
NPO 法人
相生いきいきネット作成

西国街道について

西国街道は、京の都と九州の大宰府を結ぶ幹線道路で相生市内を通っています。明治時代までの幹線道路として矢野地区を東西に横断する古山陽道（姫上線のルートとほぼ同じ）とこれに並行するように通る西国街道（国道２号線のルートとほぼ同じ）があります。

このマップでは、千種川から揖保川までの街道周辺をご案内します。

赤穂市有年横尾・牟礼地区

横尾地区は街道が通っており、国道 2 号線の南側に街道の面影を残しています。この地区には一里塚があったと伝えられています。西の方にある池魚塚は、湿地を通る街道の道路改修のために売られた魚を供養するために建てられました。この地区は、山陽鉄道が開通して有年駅ができると物流の要所として繁栄しました。

牟礼地区は、街道は通っていませんが、幕府直轄の天領で、千種川が川止めになると参勤交代の大名などが宿泊する天領本陣がありました。牟礼八幡神社には、『農耕絵馬』をはじめ法橋義信画、清原千古画の絵馬が数多く残っています。『農耕絵馬』は、明治十年代に牟礼八幡神社に奉納されたもので、田起こしから収穫までの様子が生き生きと描かれており、描かれた農具とその用法は、江戸末期頃の農耕の様子がしのばれるものであり、貴重な民俗資料といえます。

相生市若狭野町若狭野地区

若狭野地区の街道は、国道２号線とほぼ同じルートを通っていました。江戸時代には、若狭野村ほか近在 11 ヵ村三千石の領主の旗本浅野氏の陣屋が置かれており、現在も札座（藩札をつくったところ）の建物であった法界庵と、那波野西法寺に移築された陣屋門が残っています。陣屋の敷地内に建てられた須賀神社の境内には、和泉式部ゆかりの薬師堂があります。また、七世紀ごろの古墳が残っています。

相生市若狭野町 福井・下土井・出・八洞・野々地区

18 世紀に萩藩によって作られた絵図「行程記」には「奥ノ山村」と記されています。国道２号線の北側には西国街道が残っており、「街道」・「茶屋」などの呼び名が今でも使われています。茶屋筋は往来の頻繁な若狭野村の中心であり、昭和になってからも石屋、鍛冶屋、洋服の仕立屋、ブリキ屋、自転車屋、医者、材木店など、商工業の中心でした。大避神社は若狭野地区西部の鎮守として、天満神社は東部の鎮守として祀られています。長州征伐の進軍のため幕末に作成された絵図によると天満神社の東側に一里塚が描かれています。一里塚は道の両側にあり、榎が植えられていました。八洞の称念寺には室町時代の作と鑑定されている黒仏（ハリボテの仏）が伝えられています。

相生市若狭野町上松・入野・鶴亀地区

この地区は、「行程記」では入野村と総称されています。若狭野忠魂碑のところで国道を渡り上松地区へ入ると円立寺の伽藍が見えます。赤松一族である宇野氏の創建と伝えられています。再び国道を渡り東へ進むと鶴亀です。この集落は、宿場と宿場の中間にできた間の宿（あいのしゅく）で、旅行く人々の休息の場として繁栄し、鶴屋・亀屋という旅宿のほか食物・飲物の出店が並んでいたと言われています。明治 18 年 8 月に明治天皇が巡幸されたときは鶴亀で休息され、その記念に駐蹕（ちゅうひつ）処記念碑が建てられています。

相生市竜泉・陸地区

この地区は、町の発展につれて大きく変貌し、西国街道はほとんど原形をとどめていません。唯一、赤穂道への分岐点に建てられている、「是より右さいこくみち」と書かれた道標が昔の面影を残しています。江戸時代に旅した大田南畝（蜀山人）は、江戸時代の陸地区の様子を次のように記しています。「左に小社あり（注：天満神社）。農家すこしあり。やぐらという所なり。小流（注：鮎帰川）をわたるに石飛（注：橋がなく飛び石）石多して水音あり。一里塚あり。左は榎、右は枯れて若木を植えたり。田間をゆくに岐路あり。是より右西国道といふ石表あり。（注：道標は現在より東側にあった）

相生市池之内・双葉町・赤坂町

「行程記」に池之村と記されている池之内は現在の池之内・汐見台のほか双葉・赤坂の一部も含まれていました。双葉町・赤坂町は住宅地として発展しましたが、街道は比較的よく残されており、辿ることができます。「立ち寄れば　もらさず救う地蔵尊　み徳は高き　法の赤坂」と詠まれた赤坂地蔵は、数奇な経過を経て現在は上ノ山公園の脇に安置されています。この公園の場所に 12 世紀に那波山城という平家の城が築かれましたが源義経に攻められ、落城したといわれています。公園の南には 15 世紀開基の長専寺があります。

相生市那波野地区

那波野地区は揖保郡神部村の一部でしたが、昭和 26 年に相生市に編入されました。東部公民館を過ぎると旧那波野村に入り、使者場が置かれていました。街道の北側の集落の中に西法寺があります。この寺は赤松氏の一族が 16 世紀に開基したもので、山門は若狭野陣屋からの移築、庫裏は林田から移築されたものです。西法寺の東側に古墳時代の代表的な古墳といわれる塚森古墳があります。街道沿いに若宮神社があります。この神社の境内に 16 世紀に堂宇を建立したのがはじまりといわれ、京極家の妻の難産にご利益があったことからその名がついた子安荒神があります。

たつの市揖保川町原・大門・片島地区

現在の原地区は、片嶋の宿といわれ、明治維新のころには 80 戸の家があり、大半が宿屋だったそうです。「行程記」には、「当宿は下りは送りなし、半宿なり」と記されており、上り客用の宿場で、下り客は正条の宿が受け持っていたようです。本陣の山本家の前には石標が建てられています。すぐ東の了福寺の山門は本陣の門を移築したものです。西池は道路工事により大きく姿を変えました。北側の長谷山には赤松氏の城があり、嘉吉の乱のときに山名の軍勢によって滅ぼされました。大門の宝積禅寺には空井戸があり、長谷山城に通ずる間道だったそうです。嘉吉の乱で亡くなった兵士を弔うため、大門に地蔵さまが建てられ、この地蔵と相対する原にも地蔵さまが建てられました。

たつの市揖保川町正条地区

正条地区も街道がよく保存されており、竜野駅前を東に向かうと本陣井口家があります。明治天皇は鶴亀での休息のあと正条で昼食をとられました。井口家の前には明治天皇正條行在所の石碑が建てられています。郵便局とところに石の道標があり、「右ひめぢかうべ　左たつの山さき道」と彫られています。ここから揖保川の土手に出ると正条の渡し場です。竜野駅の北側には神部神社があり、「播磨国風土記」にいう石神とされる巨岩が露出しています。